

「連続切片作ろうの会」参加報告

1. はじめに 目的等

で体のなをるためのとして、されている Array tomographyがある。しかしこのにはのを上にするというしいステップがあり、このの不をすべく会がキックオフとしてされた。なとをし、今のにてるためした。

2. 期・場所

令 5 10 19

3. 参加者等

、企 など にかかわる、 70

4. 研修内容

以下のをした。

- ① CLEMによるアレイトモグラフィのための作
- ② による体丸ごとの3D
- ③ めない600作 TIPS
- ④ ノッチナイフをいたアライメントと作
- ⑤ のをにする
- ⑥ ボリューム Array Tomographyの・をいた

5. まとめと感想

今回参加するにあたり、広大の室の現状でどこまでこの技術に対応できるのだろうか、少しだけでも何かヒントが得られればよいのだが、と思っていた。講義では実の手技が詳細に紹介された。得られたヒントは少しどころではなかった。シリコンウェハーのホコリの取り方から始まりその時どんなグローブを使うのか、親水化処理の要性、切片回収にマニピュレーターを使用する、薄切時に続しにくい場合の対処等々、さらに細かなコツや工夫が所にあった。大きなラボや企業では、く受け継がれてきた技術を解析手法に合わせて容易く発展させることができるのだろうと感じた。一人独学でやっていたは到底たどり着けるものではなく、講義内容はプラクティカルで大変有意義であった。

使用する具はだいたい広大室に揃っている。あとは自分の腕を磨き、ぜひこの技術を身に着けたいと思った。